

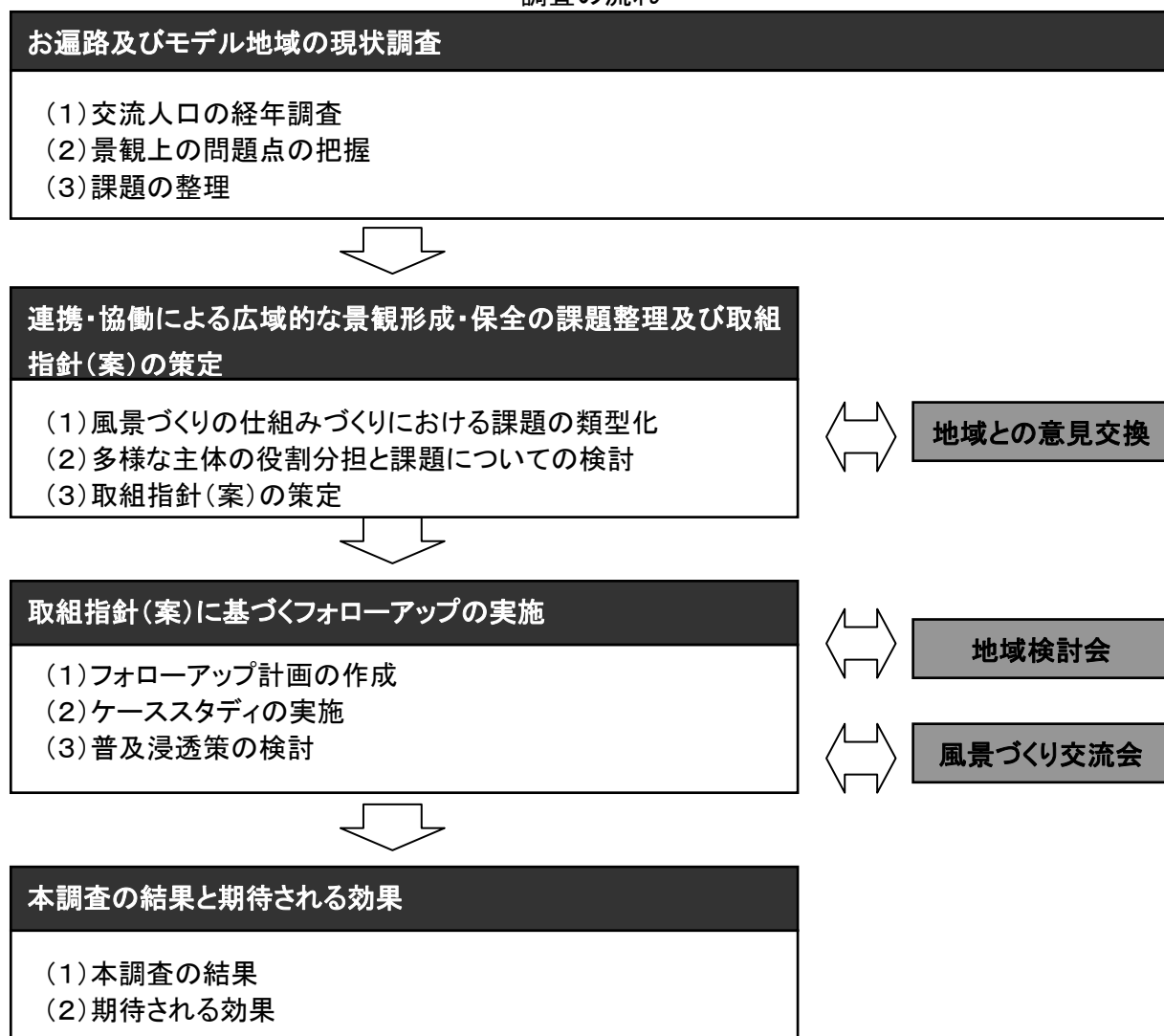
1 調査の目的と流れ

四国圏に根ざした「お接待」、「普請」と呼ばれる地域文化は、これまで、お遍路道周辺の景観等の維持や保全において大きな役割を果たしてきた。また、これらの地域の活動は、お遍路道のみならず、四国におけるまちやむらの美しい景観保全の基盤としても重要な役割を果たしてきた。

このような伝統的な官民連携の活動をさらに進め、主体的に地域づくりに関わる意欲を持った人材を育成するとともに、美しい自然や歴史・文化等の地域の資源を再発見し、その魅力に磨きをかけて価値を高め、それを最大限に活用していこうとするものである。

本調査では、お遍路道を軸とする周辺地域における具体の景観づくりをモデル事例として推進することにより、「お接待」、「普請」という四国圏固有の地域文化を保全し、活用するための、多様な主体が参加する実践的な「取組指針」を整備する。これにより、四国八十八箇所霊場の遍路道周辺の地域の観光資源としての魅力の向上や地域づくりの支援を図るものである。

調査の流れ



2 お遍路及びモデル地域の現状と課題

2.1 お遍路及びモデル地域の現状

項目	現状
四国の観光入込状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 本四架橋が開通したそれぞれの年には、若干の増加がみられるが、現在は2,600~2,700万人と横ばい
主要観光地への観光入込客数	<ul style="list-style-type: none"> ● 徳島県、愛媛県は、平成14年度から17年度にかけて、年々減少傾向にあったが、平成18年度から19年度にかけて増加 ● 香川県は、平成14年度から年々増加傾向（歴史・文化に対する入込客数が大幅に増加） ● 高知県は、NHK大河ドラマの放送にともない平成18年度に一旦増加したが、翌年には、再び減少
自然資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 瀬戸内海国立公園、足摺宇和海国立公園、室戸阿南海岸国定公園、剣山国定公園、石鎚国定公園の5か所が指定 ● 県立自然公園は32箇所が高知県に多い ● 四国内の谷・溪谷、滝、海洋・海峡及び離島等の調査を行うとともに、四国のみずべ八十八カ所、水に関連する100選、特殊な地形、温泉、森林、四国お夕日・夜景等ビュースポット、天体観測施設・プラネタリウムを調査
人文資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 国・県指定有形文化財、国登録有形文化財、国選定重要伝統的建築物群保存地区、国・県指定史跡、国・県指定名勝などの指定状況を調査 ● 四国八十八カ所、歴史的町並み、主要な文化的景観、歴史文化道、道に関する100選等、美術館、庭園などについて調査

2.2 自治体アンケート調査結果

「四国八十八箇所霊場と遍路道周辺における広域的な文化的景観形成と計画的保全プロジェクト」に対する支援活動として、遍路道周辺の各地域における景観形成や風景づくりの実践活動に関する現状を把握することを目的にアンケート調査を実施。

設問	結果
遍路道周辺の景観形成や風景づくりに対する今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 「自然的な景観資源の保全や再生など」「歴史的な景観資源の保全や再生など」が多い ● 歴史的な景観資源の保全や再生などについて今後進めていきたい取組みは「史跡や名勝、天然記念物等に関する景観」「伝統的な町並みに関する景観」 ● 自然的な景観資源の保全や再生などについて今後進めていきたい取組みは「海浜や海岸線等の景観」「河川や湖沼等の景観」 ● 文化的な景観資源の保全や再生などについて今後進めていきたい取組みは「田園等の耕作地の景観」「道や広場等の流通や往来に関する景観」

	<ul style="list-style-type: none"> ● その他の取組みとしては「いやし・休憩の場所の提供」「生き生きとした人々の営みが背景となる豊かな景観形成」
取組みを進めていくための手法に対する検討、実行	<ul style="list-style-type: none"> ● 「景観計画による景観形成や風景づくり」「屋外広告物の規制等による景観形成や風景づくり」が多い
今後進めていくべき取組みに関して、地域で活動されている団体の有無	<ul style="list-style-type: none"> ● 取組みが「行われている」が14市町村あり、徳島県で多い ● 取組みを行っている団体は「NPO などのまちづくり団体」「自治会や婦人会等の地縁団体」
取組み団体が景観形成や風景づくりの活動を進める上での課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 取組み団体が活動を進める上での課題は、「若手や地域のリーダー等の人材発掘や人材育成が難しい」「地域づくりや景観づくりの活動に対する地域住民の意識が低い」「活動を進める上での資金が不足している」
行政として果たすべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政としての役割は「人や組織の育成の支援」「地域活動へのきっかけづくり」「活動の拠点となる場づくり」

2.3 ヒアリング調査

アンケート結果等を踏まえ、さらに、広域的な文化的景観の形成と保全、観光地域交流から見た文化的景観の形成と保全、都市・中山間地域交流から見た文化的景観の形成と保全に関する現状把握を行うため、ヒアリングによる取組み実態調査を実施。

市町村	ヒアリング先
徳島県上板町	上板町役場 産業課
徳島県吉野川市	吉野川市役所 都市住宅課
徳島県三好市	三好市役所 まちづくり推進課
高知県高知市	高知市役所 都市計画課
高知県南国市	南国市役所 都市整備課
高知県東洋町	東洋町役場 産業建設課
四万十川条例	梶原町 環境整備課
愛媛県宇和島市	宇和島市役所津島支所 教育課
愛媛県大洲市	大洲市役所 都市整備課
愛媛県松山市	松山市役所 都市開発課
愛媛県新居浜市	新居浜市役所 都市計画課
香川県宇多津町	宇多津町役場 建設課
香川県直島町	直島町役場 総務課
香川県東かがわ市引田地区	東かがわニューツーリズム協会

2.4 モデル地域の現状・課題、背景

プロジェクト名	現状・課題、背景
四国八十八箇所霊場と遍路道周辺における広域的な文化的景観形成と計画的保全プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ● 四国八十八箇所霊場及び遍路道周辺の文化的景観に対する理解を深め、生活の場として利用・保全する観点が不可欠
町の宝「夢ざくら」満開	<ul style="list-style-type: none"> ● 基幹産業であった未完産業が低迷し、若者が流出、過疎化が進む ● ビッグひな祭等のイベントによって交流人口増によりにぎわいを取り戻したい
祖谷のかずら橋たたずまい創出プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ● 「祖谷」秘境として名を轟かせていますが、現実には観光化され個性も薄れてきている
東かがわ市引田地区 歴史街並み景観調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 町並み保全・活用型の観光交流を進めているが、住民の高齢化や貴重な歴史的建物の老朽化、喪失が深刻な問題 ● 引田地区における具体的な観光まちづくりの目標が欠如
道後温泉 歴史漂う景観まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊客数が平成11年度の135万人をピークに、80万人前半にまで減少 ● 事業者や市民への町の景観の重要性の認識醸成が必要 ● 美しい町を作っていく具体的なプロセスの提示方法が問題
梶原ししまる地区 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 少子・高齢化や人口減少が進み「集落消滅」の危機感 ● 美しい風景や伝統文化といった大切な宝物を活用しつつ、良好な景観形成を維持、継承していきたいが、検討・活用の仕方に苦慮

■四国への観光入れ込み客数の動向

- ・本四架橋の整備効果によって、一時的に観光客が増加したが、その後は横ばい状況
- ・魅力ある施設整備や街並み景観整備などで地域の魅力が上がっている地区などは、入れ込み客数が増加している。

■景観保全・活用等に関する新たな動向

- 別子銅山周辺の近代化遺産の保全に向けた活動が行われている。
- 重要文化的景観などに指定された遊子地区などが、景観による経済効果が出てきている。
- 四万十川条例や流域一体での重要文化的景観指定など、広域的な取組みで観光客誘致や地域活力の進展に努力している。
- 直島の現代アートと結びついた取組みや企業との連携など大幅な活性化効果をあげている。

■住民側の要因

《プロセス》

○地域の価値に気付いていない

- ・当たり前の風景であり、特に地域への愛着や誇りといったものがない
- ・地域資源、景観資源の価値を理解しない
- ・町並み保存の意義や伝建地区を目指すことの意味など理解されていない

○景観計画等の内容が浸透していない

- ・それが「規制」ではなく、ゆるやかなルールづくりとして必要なものであることを地元に分かってもらえていない

《意識》

○少子高齢化等、活力低下による地域への愛着が薄まっている

- ・地域住民の地域への愛着も小さい
- ・農業の担い手がない。若者が少ない

○公共空間に対する住民の意識は低い

- ・景観整備など、整備に対する必要性の意識が低い

○観光に結びついているところは、住民の理解と協力が得られつつある

- ・観光客が来るかどうかというのがわかりやすい

○住民の意識は行政に依存

○特定の人だけが活動

- ・特定メンバーに限られて、モチベーションの問題がある

○意識を持った人もいる 地域の人に関心を高めていく

- ・婦人会の活動が支えている地区もある
- ・お接待のこころを持って地域づくりを進めている地域がある

《取組み》

○整備や事業に関する負担の問題

- ・維持管理も大変なので、地元からの抵抗感は大変。
- ・狭小宅地での建て替えが難しい
- ・事業地区での温度差がある

○民間活動団体が少ない

- ・県庁所在地でも景観づくり等に関する活動を行っている民間団体が皆無の都市も存在

■問題点

□顕在化している問題

○田圃の耕作放棄地が目立つ

○山林の荒廃が進んでいる

- ・地域特有の山村集落の景観が失われつつある

○建物の空洞化が進んでいるが活用が進んでいない

- ・町並みの中の建物が空き家になるケースが増えてきている
- ・商店なども空き家・空き店舗を利用しようとする動きがない

○海岸線にはゴミが多い

○眺望景観が阻害されている

- ・マンションの乱立が温泉街を台無しにする
- ・お城の眺望景観が損なわれるおそれがある

○道路沿道における屋外広告物の問題が生じている

□潜在的な問題

- ・今のところ遍路道沿いには目立った看板や近代的な建物などもなく、原風景が残されているが、このまま存続する保証はない

- ・改修の必要な歴史的建造物が数多くあるが、補修費用の補助額が限られており改修が進まない。

- ・地区の空き屋化も進んでおり、建造物の老朽化を早める要因となっている。

■行政側の要因

□行政の内部の要因

○スタッフ不足・人材不足

- ・行政、地域ともにスタッフ不足している
- ・小規模自治体での人材不足
- ・専門的技術力を持ったスタッフがいらない
- ・外部からの専門的アドバイスが必要
- ・国や県などの外部の立場からの助言はサポートとしてありがたい

○内部での理解不足

- ・単に町並みを保存するというだけでは、行政の内部も含めてなかなか理解が深まらない

○住民と行政との連携不足

- ・まちづくり、景観づくりは、行政単独では無理。地域を巻き込んで取り組む必要がある

○都市計画行政としての対応の方向性が見出せない

- ・良い制度があっても、使いこなせない(人材不足・技術力不足)
- ・制度が当てはめにくい
- ・補助金も自治体負担が多く、使いにくい

■景観行政制度等の要因

□多様な法制度、支援事業が充実している

- ・景観法による景観計画
- ・重要文化的景観
- ・歴史まちづくり法など

○自治体景観整備の2つの方向性

- ⇒自然的な景観資源の保全や再生など
- ⇒歴史的な景観資源の保全や再生など

□活用したくてもできないメニューもある

- ・補助制度の問題
- ・自治体の単費による負担が大きい
- ・適用範囲がわかりにくい